

初代蓼胡蝶六十年忌追善演奏會 初代蓼胡蝶作品集

59 染めあげて 三下り 邦枝完二作詞 唄 蝶弥 糸 胡里

「染めあげて 出たかお江戸の初なすび 色の苦勞をそのままのせて 籠に嬉しい夢のあと

60 今宵妻 本調子 野崎比古山人作詞 唄 胡菜三 糸 競雪野

「故郷に 今は旅寝の物憂さを酒にそやされ格子先 染めなす秋の色種の どの傾城を今宵妻

「軒をこぼるゝ稲妻の そのはかなさは一夜さの 枕のみかわ人の世もまた

61 三日月の頃より 本調子 大隈俊武作詞 唄 胡満桜 糸 胡満千加

「三日月の 頃より待ちし今宵こそ 逢わねば済まぬ胸のうち あれ気にかゝる村雨の

霽るゝ 思いを八百松の 待つ間もあらでこの笑顔 嬉しい 首尾ぢやないかいな

62 今さらに 本調子 斎藤愚粹庵作詞 唄 胡伊葉 糸 胡文雄

「今更に 愚痴は言わねど 主ゆえに 捨てたこの世の玉の輿 立てし浮名も恋の意地
人が幾ろが蓼の虫

63 粹なお方 三下り 木原猷胤作詞 唄 胡茂 糸 史ま由

「粹なお方の妻になど 植えしは誰か蓼の草 虫が好いたか情のかけに 露を命と飛ぶ胡蝶

64 置炬燵 三下り 歌村某作詞 唄 胡治 糸 競雪野

「置炬燵 ついうたゝ寝の耳もとに そつと忍んで 夕闇の「おや雪かえ」

障子細めに吹き込む風も 肌に嬉しい酔心地

65 白菊 本調子 森広蔵作詞 新寿かく・蓼胡蝶作曲 唄 津留葉 糸 胡宏

「白菊の目に立てて見る塵もなし 糸の音締め夜も更けて いなせともなき今日の月
またの逢瀬を枝折戸に 虫さえ泣いているわいな

66 念がとどいて 三下り 船橋聖一作詞 唄 胡満佳 糸 胡満千加

「念がとどいて こうなるからは 風も嫌 雨も嫌 解けた素顔に春の酔こちやしつぽりと川船の
流れも深く竿の露